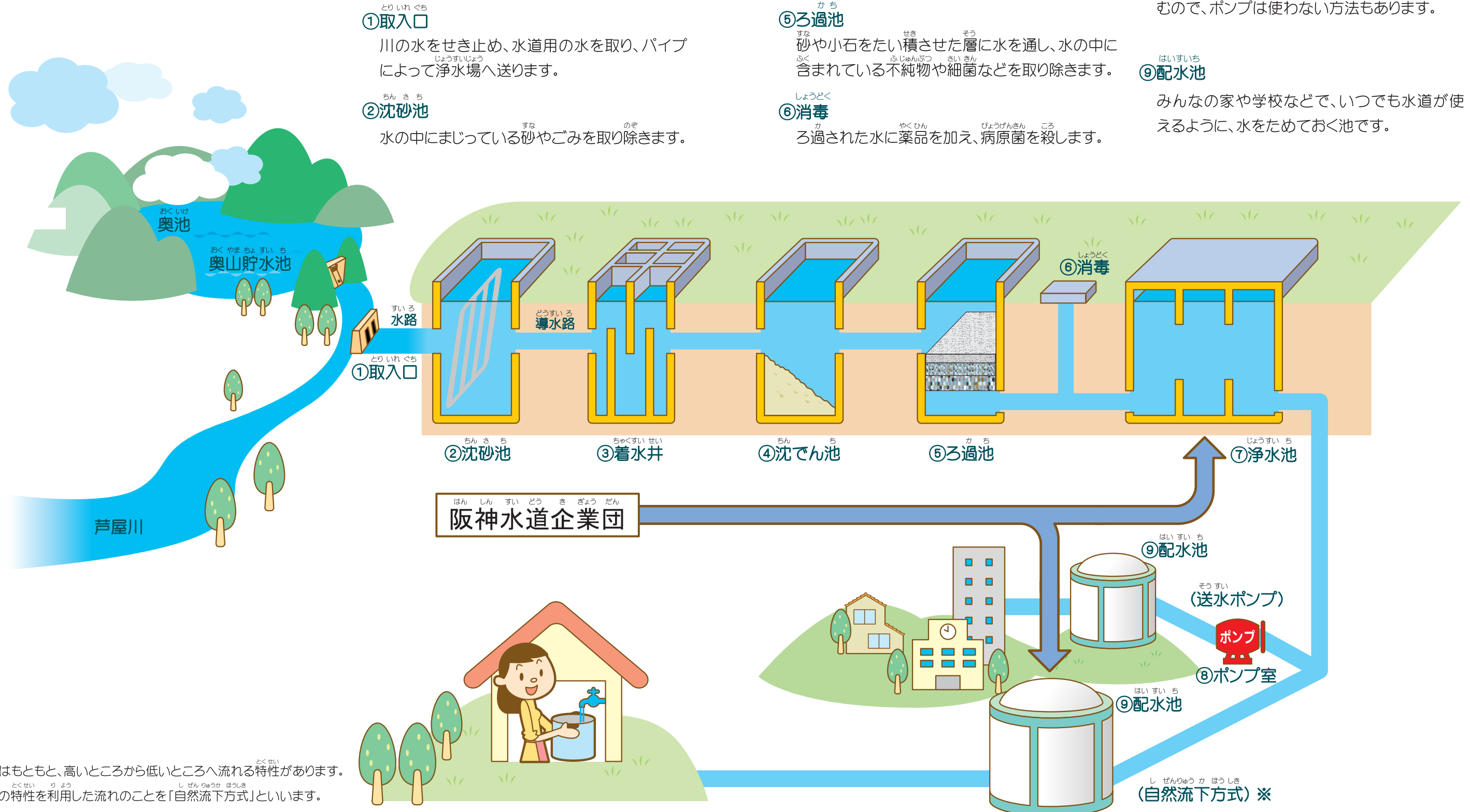


# 水道の水になるまで

わたしたちの生活になくてはならない水道の水は、「奥池浄水場」、「奥山浄水場」という2箇所の浄水場で、芦屋川から水を取り入れてつくられた水(自己水といいます)と、阪神水道企業団でつくられて買った水(受水といいます)があります。それぞれの浄水場では、いろいろな施設を通して、きれいで安心して使える飲み水となります。

※図は奥山浄水場の浄水方法を示したものです。



## ①取入口

川の水をせき止め、水道用の水を取り、パイプによって浄水場へ送ります。

## ②沈砂池

水の中にまじっている砂やごみを取り除きます。

## ③着水井

浄水場へ流れ込む水の水位を調節したり、水の量をはかります。

## ④沈でん池

沈砂池で沈まなかった小さな砂やごみを、さらにここで池の底に沈めます。

## ⑤ろ過池

砂や小石をたい積させた層に水を通し、水の中に含まれている不純物や細菌などを取り除きます。

## ⑥消毒

ろ過された水に薬品を加え、病原菌を殺します。

## ⑦浄水池

きれいになった水をためておいて、配水池に送るための水の量を調節します。

## ⑧ポンプ室

水をポンプの力によって、配水池へ送ります。低いところにある配水池へは、自然の力で流れ込むので、ポンプは使わない方法もあります。

## ⑨配水池

みんなの家や学校などで、いつでも水道が使えるように、水をためておく池です。

※：水はもともと、高いところから低いところへ流れる特性があります。この特性を利用した流れのことを「自然流下方式」といいます。